

## 基準ごとの自己評価

### 基準 1 高等専門学校の目的

#### (1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として,高等専門学校の使命,教育研究活動を実施する上での基本方針,及び,養成しようとする人材像を含めた,達成しようとしている基本的な成果等が,明確に定められているか。

#### (観点に係る状況)

本校の目的は,創設時に明確に定め,学則に掲げている(資料 1 - 1 - - 1)。百余年の長期にわたる商船教育に加えて,工業系 2 学科(電子機械工学科,情報工学科)が改組により設置されたものの,基本的には本校の目的は変わらない。

また,平成 14 年度には,学校として養成したい人材像及び学科ごとの養成したい人材像を定めることで,卒業時に習得すべき資質と学力をより具体的に示し,本校の中期計画,学校要覧,ホームページに掲載している。

#### (教育方針)

自然科学および専門技術の基礎力を身につけ,高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

身の回りの諸現象,特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き,多角的に考えたり調べたりできる,独創力のある人材の育成。

日本および世界の文化や社会に関心をもち,国際的視野でものが見られ,しかも人間として,技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

#### (養成したい人材像)

教 養 教 育:幅広い視野に立った総合的な判断力,斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す。

商 船 学 科:船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成。

電子機械工学科:ものづくりのできる実践的な技術者 - 計画・設計から生産・保守運用までできる技術者 - の育成。

情 報 工 学 科:情報リテラシー,情報工学の知識に加え,問題分析,解決能力を備えたシステム技術者の育成。

専 攻 科:実際のシステムの運用・管理や開発能力,「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成。

#### (分析結果とその根拠理由)

本校の目的は,高等専門学校の使命を明確に定めている。また,目的に基づいて学校及び学科ごとの教育方針として,養成すべき人材像を具体的に定めている。

以上のことから,本校は,高等専門学校としての目的を明確に定めているといえる。

資料 1 - 1 - - 1

## 弓削商船高等専門学校学則

制 定 昭和44年 1月 1日

最終改正 平成18年 2月 16日

## 第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

## 第 2 章 修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻

(修業年限)

第 2 条 修業年限は、商船に関する学科については5年6月とし、工業に関する学科については5年とする。

2 商船に関する学科の修業年限のうち、4年6月を席上課程とし、1年を練習船による実習課程とする。

(学年)

第 3 条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、商船に関する学科の卒業年次にあつては、4月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

(学期)

第 4 条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第 5 条 休業日は、次のとおりとする。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることがある。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (2) 日曜日及び土曜日
- (3) 創立記念日 1月11日
- (4) 春季休業 4月1日から4月7日まで
- (5) 夏季休業 7月21日から8月31日まで
- (6) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで
- (7) 学年末休業 3月20日から3月31日まで

2 前項に規定する休業日のほか、臨時の休業日は、校長がその都度定める。

(授業終始の時刻)

第 6 条 授業終始の時刻は、校長が別に定める。

## 第 3 章 学科、学級数、入学定員及び職員組織

(学科、学級数及び入学定員)

第 7 条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

出典：弓削商船高等専門学校学則

観点 1 - 1 - : 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではないか。

( 観点に係る状況 )

本校の教育方針は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的である「深く専門の学芸を教授」「職業に必要な能力の育成」を踏まえて、定められたものである(資料 1 - 1 - - 1 )。平成 16 年度の独立行政法人化を機に、有識者による外部評価を実施し、本校の教育目的、方針を含む学校運営に関する自己点検評価報告書を作成することで諮問を受けている(資料 1 - 1 - - 2 )。

( 分析結果とその根拠理由 )

本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的を踏まえて策定されている。また、有識者による外部評価を実施することで諮問を受けている。さらに、学科ごとの教育方針として、養成すべき人材像も具体的に定めている。

以上のことから、本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではないといえる。

資料 1 - 1 - - 1

## 高専の教育目的と本校の教育方針との整合性

高専の教育目的	本校の教育方針
深く学芸を教授	自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
職業に必要な能力の育成	身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

出典：自己点検評価委員会

資料 1 - 1 - - 2

**2-2. 本校の教育目的・方針**

本校の教育目的は、学則第一条に次の通り定められている(昭和44年)。すなわち、教育基本法(S22年法律第25号)及び学校教育法(S22年法律第26号、第5章の2)に基づいて、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」。これは高専の設置目的と一致している。また、教育方針として、「専門の基礎的な学理と職業に必要な能力を身につけさせ、国家社会に貢献できる人材の育成」が掲げられてきた。教育方針については平成14年度に見直され、科学技術の急速な高度化・複合化、豊かな創造性の涵養、グローバル化の進展を視野に入れて国際感覚と豊かな人間性の育成を目標として、以下のように改められた。

- ①自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- ②身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造性のある人材の育成。
- ③日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものが見られ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

出典：平成16年度自己点検評価報告書

観点 1 - 2 - : 目的が、学校構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育目的は、ホームページ及び刊行物等により学校構成員（教職員及び学生）に掲載されている。

本校の目的は、学内専用ホームページ（資料 1 - 2 - - 1）による一般的な周知のほか、学生には学生便覧（規則等の項目）にて周知している。

教育方針（養成すべき人材像等）は、本校ホームページ（資料 1 - 2 - - 2）による一般的な周知のほか、学生には、学生便覧（資料 1 - 2 - - 3）及びシラバス（資料 1 - 2 - - 4）により周知している。教職員には、学科ごとの教育方針を明記した中期計画書（資料 1 - 2 - - 5）、学級担任の手引き（資料 1 - 2 - - 6）及び新任教員手引き（資料 1 - 2 - - 7）を配布することにより周知している。

上述した刊行物等の配布に加えて、本校の目的及び教育方針は、各教室・各課事務室に、養成すべき人材像を明記したパネルの掲示、新入生オリエンテーション、新任教員オリエンテーションで刊行物を活用して教務主事が説明することで周知している（資料 1 - 2 - - 8）。

（分析結果とその根拠理由）

本校は、教職員及び学生に対して、ホームページや刊行物等によって目的及び教育方針の周知を図っている。以上のことから、目的が、学校構成員（教職員及び学生）に周知されているといえる。

資料 1 - 2 - - 1

2006年6月16日(金) 三村 秀樹さん 在席

更新 ログアウト

管理者設定 ヘルプ

マイWeb 検索 検索オプション

トップページ  
掲示板  
スケジュール  
認備予約  
MyWebMail  
在席管理  
ライブラリ  
リンク集  
共有アドレス帳  
ワークフロー  
決裁  
日報管理  
電子会議  
アンケート  
議事録  
データバンク  
利用状況表  
ユーザー名簿  
個人設定

ライブラリ

フォルダ

- 規則集 [133]
- 校報 [3]
- 校長 [0]
- 事務部 事務部長 [0]
- 庶務課 [24]
- 会計課 [21]
- 学生課 [6]
- 商船学科 [0]
- 電子機械工学科 [0]
- 情報工学科 [0]
- 総合教育科 [0]
- 練習船弓削丸 [0]

ファイル登録・変更・削除

規則集 [登録ファイル数: 133]

サムネイル表示

一覧表示	見出し	サイズ	拡張子	最終更新日
詳細	規則一覧表	50KB	xls	2006年6月16日
詳細	1-1 弓削商船高等専門学校学則	579KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-1 弓削商船高等専門学校運営委員会規則	23KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-2 弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則	24KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-3 弓削商船高等専門学校人事委員会規則	23KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-4 弓削商船高等専門学校人事委員会専門委員会設置要項	22KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-5 弓削商船高等専門学校	23KB	doc	2006年8月24日

スタート

ライブラリ - MyWe...

送信済みアイテム...

認証評価(平成1...

標準1 - Microso...

caps kana

インターネット

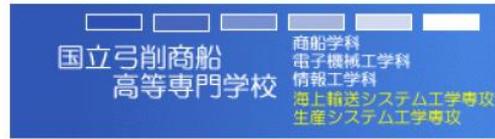
17:35

出典：学内専用ホームページ

資料 1 - 2 - - 2

弓削商船高等専門学校 - Yuge National College of Maritime Technology

1/1 ページ



- [HOME](#)
- [ニュース](#)
- [お問い合わせ](#)
- [リンク集](#)
- [サイトマップ](#)

弓削商船高等専門学校 ◆

☐ メインメニュー

- ホーム
- ニュース
- 学校案内
- 本校の環境への取り組み
- 入試情報・アドミッションポリシー
- シラバス
- 学事予定表
- FAQ
- ダウンロード
- リンク集
- 本校へのアクセス
- お問い合わせ

☐ 学内WWWサーバ

- 情報処理教育センター
- 図書館
- 白砂寮
- 同窓会
- WebMail
- MyWeb(学内ポータル)
- 文書公開サーバ

☐ 学生向け情報

- 学生連絡
- 授業変更

☐ 訪問者数

今日	369
昨日	995
総数	648232

☐ 検索

高度な検索

☐ 弓削商船高等専門学校

〒794-2593愛媛県越智郡  
上島町弓削下弓削1000  
TEL 0897-77-3000

☐ 本校の教育方針



- 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

☐ 最新ニュース

- 2006-3-24 機関別認証評価に係る訪問説明会
- 2006-2-24 弓削商船高等専門学校で公開授業
- 2006-2-24 弓削商船高専で就職講演会を開催
- 2006-2-22 岩城村イベントにロボット展示
- 2006-2-15 第27回四国地区高等専門学校駅伝で優勝
- 2006-2-10 キャンパスベンチャーグランプリ四国にて特別賞、努力賞
- 2006-2-7 校内マラソン大会を実施
- 2006-1-19 第2回e-Learning創造性教育セミナーのインターネット中継のご案内
- 2005-12-16 弓削商船高専で学生研究発表会
- 2005-12-16 教員対象のカウンセリング教育に関する講演会を実施

☐ 新着記事

- 商船学科5年 Eコース (2006-4-25)
- 商船学科5年 Nコース (2006-4-25)
- 商船学科4年 Eコース (2006-4-25)
- 商船学科4年 Nコース (2006-4-25)
- 商船学科3年 (2006-4-25)

☐ 今後の予定

- ▶ 5月20日 瀬戸内2校定期考
- ▶ 5月22日 追認試験(第2回)
- ▶ 5月24日 M1航海実習

☐ 授業時間変更

予定なし

☐ 新着ダウンロード

- 専攻科だより 第6号 (2006-5-8)
- 専攻科だより 第4号 (2006-4-10)
- 専攻科だより 第5号 (2006-4-10)
- 紀要 第28号 平成18年2月 (2006-3-24)
- 図書館だより 2003 (2006-3-24)

Copyright (c) Y.N.M.C.T 2005 . All rights reserved.  
This page is Link free

出典：本校ホームページ

資料 1 - 2 - - 3

## 教 育 方 針

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- 3 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

## 教 育 目 標

- 1 教養教育  
幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育のための基礎的能力の涵養と教養の育成
- 2 専門教育
  - 商船学科  
船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
  - 電子機械工学科  
ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
  - 情報工学科  
情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成



出典：平成 18 年度学生便覧

資料 1 - 2 - - 4

## 本校の教育理念

- \* 長所を伸ばし、短所を自然淘汰させる。
- \* 好奇心を旺盛にし、自発的な思考力・探究心を培う。
- \* 実践的に五感を磨き、豊かな感性と創造力を培う。
- \* 人間性に富み、高い倫理観を有する人格を育てる。

## 本校の教育方針

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

出典：平成 18 年度シラバス

資料 1 - 2 - - 5

## 弓削商船高等専門学校中期計画書

## I 国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1 教育に関する目標を達成するための措置

## (1) 教育の成果に関して達成すべき内容・水準(徳育、創造性教育を含む)

## ① 教養教育

- 実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育ならびに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準

幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す。

## ② 専門教育

- 実践的技術者として備えるべき内容・水準

## 商船学科

船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

## 電子機械工学科

ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成

## 情報工学科

情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

## ③ 専攻科教育

- 高度な実践的技術者として備えるべき内容・水準

## 海上輸送システム工学専攻・生産システム工学専攻

実際にシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身に付けた技術者の育成

## (2) 目標に掲げる内容・水準を達成するための教育指導等

## ① 入学者選抜

- 国立高等専門学校にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的方策

- ア 社会的ニーズや地域特性の変化に対応したアドミッションポリシーの定期的な見直し
- イ 新入生実力テストの実施と評価
  - ・ 年1回の実施と報告書の作成を行う。
- ウ 選抜方法の検討
  - ・ 入学生の追跡調査を行い、選抜方法についての検討を行う。
- エ 学校PRの拡充強化
- オ 商船学科4年生への編入学
  - ・ 教育課程の改善を行い、編入学生と第一種養成施設との整合性を検討する。

出典：弓削商船高等専門学校中期計画書

資料 1 - 2 - - 6

## 本校の教育方針

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- 3 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

## 学科としての人材育成目標

- S 船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
  - M ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
  - I 情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成
  - G 幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す
- 専 実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成

出典：学級担任の手引き

資料 1 - 2 - - 7

## I. 教育一般に関して

## 1. 本校教育の現状と課題（自己点検評価報告書参照）

## 2. 本校の教育方針

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目標とする」ことを教育の理念としている。

教育の理念を維持しつつも科学技術の発展や国際化など時代の要請に順応させるために次のような教育方針を掲げる。

- ①自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- ②身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- ③日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

## (1) 教養教育目標

幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す。

## (2) 商船学科教育目標

船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成。

## (3) 電子機械工学科教育目標

ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成。

## (4) 情報工学科教育目標

情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成。

## (5) 専攻科教育目標

実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成。

## 3. 本校教員としての心構えと勤務

(服装・勤務、社会人としての自覚、望ましい教師像)

別途説明会が実施されます。

出典：平成 18 年度新任教員の手引き

資料 1 - 2 - - 8

平成 18 年度

# 新 任 教 員 手 引 き

教 務 関 係

弓削商船高等専門学校

出典：平成 18 年新任教員手引き

## 平成18年度新入生オリエンテーション日程表

4月7日(金)

時 間	内 容	担当教員	場 所
8:40 ~ 9:30	HR(日程説明、自己紹介) ※学生便覧配付	クラス担任	各教室
9:40 ~ 10:05	教務関係説明会	教務主事	アセンブリホール
10:05 ~ 10:30	学生関係説明会	学生主事	
10:40 ~ 11:30	学校施設紹介(図書館、情報処理教育センター、実習工場等)	クラス担任	校内
11:40 ~ 12:30	校外施設紹介(銀行、役場、郵便局、港等、学校棧橋の説明)	クラス担任	町内
12:30 ~ 13:20	昼食休憩		
13:20 ~ 14:10	国歌、校歌指導 集団行動等 ※体育館シューズを持参すること	学生主事 岡野郁子	第二体育館
14:20 ~ 15:10	級長、副級長決定	クラス担任	各教室
15:20 ~ 16:10	自転車登録 通学生(学生課前) 寮生(学寮)	クラス担任 教務主事・主事補	

出典：平成 18 年度新入生オリエンテーション実施要領

観点 1 - 2 - : 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針は、ホームページ(資料 1 - 2 - - 2)と学校要覧(資料 1 - 2 - - 1)に掲載することによって、社会に対して公表している。

また、主として中学生を対象とした学校案内(資料 1 - 2 - - 2)にも、教育方針と学科ごとの養成したい人材像を記載し、年 1 回実施しているオープンカレッジで全参加者に対して配布している(資料 1 - 2 - - 3)。

さらに、「しまなみ海道」(広島県尾道市と愛媛県今治市を架橋によって結ぶルート)を中心とした中四国地区の中学校に PR 活動を展開しており、入学案内を配布するとともに、学校の目的の説明を行っている(資料 1 - 2 - - 4)。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、目的、教育方針、学科ごとの養成したい人材像をホームページに全て掲載している。また、中学生向けの学校案内には、教育方針、学科ごとの養成したい人材像を掲載しており、オープンカレッジや中学校訪問時に積極的に説明している。

以上のことから、目的が、社会に広く公表されているといえる。

資料 1 - 2 - - 1



校長  
President  
西垣 和  
NISHIGAKI Kazu

教育方針 Mission of College

1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、  
高度化かつ多様化してゆく科学技術に  
柔軟に対応できる人材の育成。

To educate students to acquire fundamental faculties of natural science and techniques of their special fields and to be able to keep up with new technology which is getting heigher and more various.

2. 身の回りの諸現象，特に海をとりまく  
自然・文化・歴史に好奇心を抱き、  
多角的に考えたり調べたりできる、  
独創力のある人材の育成。

To educate students to be curious about phenomena around, especially nature, culture and histories related to the sea and to be able to consider and research them from various points of view.

3. 日本および世界の文化や社会に関心をもち、  
国際的視野でものがみられ、  
しかも人間として、技術者として  
高い倫理観をもった人材の育成。

To educate students to be interested in the cultures and societies of Japan and overseas and to have international perspective and high morality as a human being and as an engineer.

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 1 - 2 - - 2

平成 1 8 年度

# 国立 弓削商船高等専門学校

Yuge National College of  
Maritime Technology

## 学 校 案 内

商船学科・電子機械工学科・情報工学科



出典：平成 18 年度学校案内

## 資料 1 - 2 - - 3

平成 17 年度オープンカレッジ実施要項  
(体験入学・学校見学)

- 目的 近隣の中学校生徒に対して、本校での体験入学・学校見学等、身をもって体験してもらうことにより、本校の教育の一端を理解し、生徒が進路を考える上での情報を提供することを目的とする。
- 期 日 8月4日(木)・5日(金) 9:00~15:10
- 対 象 中学生・保護者・教員
- 参加費 無料
- 実施場所 弓削商船高等専門学校
- 日 程 両日とも実施内容は同じ。  
9:00~受付 アセンブリホール前  
9:30~校長挨拶・概要の説明  
9:50~班分け  
10:00~体験授業・実験・見学・体験航海  
~15:10 (50分授業形式により各班ごとに実施。10分の休憩時アセンブリホールに集合し、次の希望授業等へ出発する。)

時間	コース	参加希望区分	学科等別の催し等
1時間目 10:00~ 10:50	体験授業	商船	ディーゼルエンジンを動かしてみよう・(定員8名程度)
		電子	ものづくりにとって大切なことは何だろうか? [ものを切る, ものを壊してみる, ものの変形をシミュレーションする]
		情報1	プログラムでレーシングカーを走らそう・(定員20名程度) (2時間連続)
		情報2	タートルグラフィックスでプログラムを体験しよう・(定員20名程度) (2時間連続)
		総合	ドイツ語1日入門
	施設見学	見学1	商船学科の施設・設備・体験授業見学・PR
		見学2	電子機械工学科の施設・設備・体験授業見学・PR
見学3		情報工学科の施設・設備・体験授業見学・PR	
2時間目 11:00~ 11:50	体験授業	商船	シミュレーターで船を動かそう・(定員8名程度)
		電子	電気のおもしろさ
		情報1	1時間目からの連続
		情報2	1時間目からの連続
		総合	冷凍庫を使わずにアイスクリームを作ろう・(定員30名程度)
	施設見学	見学1	商船学科の施設・設備・体験授業見学・PR 学寮見学(希望者)
		見学2	電子機械工学科の施設・設備・体験授業見学・PR 学寮見学(希望者)
見学3		情報工学科の施設・設備・体験授業見学・PR 学寮見学(希望者)	
昼休憩(パンとジュースを用意します。アセンブリホール)			
3時間目 13:20~ 14:10	体験授業	商船	おもしろいエンジンを組み立ててみよう・(定員8名程度)
		電子	ひとの動きについて
		情報1	科学の原理に親しもう(ミニ博物館) (定員20名)
		情報2	写真処理技術で銅版に絵を描いてみよう・(定員8名) (2時間連続)
		総合	クラブ活動紹介(将棋講座) (2時間連続)
	航海	本校練習船「弓削丸」の体験航海(2時間連続) (集合13:00:学校棧橋へ移動)	
4時間目 14:20~ 15:10	体験授業	商船	自動車ボディーの構造と材料・(定員20名程度)
		電子	コンピュータを使って遊ぼう
		情報1	ホームページを作ってみよう(定員10名)
		情報2	3時間目からの連続
		総合	3時間目からの連続
	航海	3時間目からの連続	

※区分欄の「総合」とは総合教育科のことで一般科目です。

その他 イ・定員のあるテーマもあります。申込多数の場合は第2, 第3希望にまわっていただくこともありますので、あらかじめご了承ください。

・2時間連続のテーマへは途中参加はできません。

申込方法 別紙のオープンカレッジ参加申込書に記入し、各学校で取りまとめの上、7月22日(金)までに郵送又はFAXで学生課教務係へお申込みください。

申込み・問い合わせ先

〒794-2593

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地

弓削商船高等専門学校学生課教務係

TEL 0897-77-4620

FAX 0897-77-4693

出典：平成 17 年度オープンカレッジ実施要項

## オープンカレッジ参加者数

## 2日間の合計参加人数

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
	人数	人数	人数	人数
商船	16	18	14	6
電子	40	11	30	55
情報1	26	26	33	16
情報2	9	9	12	12
総合	30	56	11	11
見学1	34	22		
見学2	0	19		
見学3	18	12		
航海			69	69
計	173	173	169	169

8月4日	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
	人数	人数	人数	人数
商船	8	10	12	3
電子	31	10	21	39
情報1	11	11	15	6
情報2	5	5	6	6
総合	19	30	8	8
見学1	22	19		
見学2	0	9		
見学3	7	9		
航海			41	41
計	103	103	103	103

8月5日	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
	人数	人数	人数	人数
商船	8	8	2	3
電子	9	1	9	16
情報1	15	15	18	10
情報2	4	4	6	6
総合	11	26	3	3
見学1	12	3		
見学2	0	10		
見学3	11	3		
航海			28	28
計	70	70	66	66

出典：学生課

資料 1 - 2 - - 4

平成 17 年度弓削商船高等専門学校「学校説明会」実施要領

1 日 時 平成 17 年 10 月 6 日 (木) 14:00～15:30

2 場 所 第 1 会議室

3 出席者

本校側 校長，教務主事，学生主事，寮務主事，商船学科長，電子機械工学科長，  
情報工学科長，総合教育科長，専攻科長，事務部長，学生課長，教務係長

中学校側 別紙 1 により通知 (昨年度は 17 校より 17 名参加)

4 次 第

(1) 開会のことば

(2) 職員紹介

(3) 校長挨拶

(4) 学校概要説明

① 教務概要 (教務主事)

② 学生活動・就職状況 (学生主事)

③ 学寮状況 (寮務主事)

④ 入試関連事項 (教務主事)

⑤ 各学科並びに総合教育科紹介 (各学科長及び総合教育科長)

⑥ 専攻科紹介 (専攻科長)

(5) 質疑応答

(6) 閉会のことば

※ 希望者は施設，設備見学 案内 (教務主事，各学科長)

5 主要施設・設備案内の経路

図書館 → 情報処理教育センター → 情報工学科棟 → 電子機械工学科棟 →  
実習工場 → 荒天航泊実験室 → 会議室

出典：平成 17 年度学校説明会実施要項

## 平成 17 年度学校説明会参加中学校

	市郡名	中学校名	校長	教頭	教諭	計
1	越智郡	弓削			1	1
2		生名			1	1
3		岩城			1	1
4		魚島				
5	今治市	吉海	1			1
6		宮窪				
7		西伯方				
8		伯方			1	1
9		大三島				
10		上浦				
11		美須賀				
12		日吉			1	1
13		近見				
14		立花				
15		桜井				
16		南				
17		西				
18		北郷	1			1
19	因島市	土生			1	1
20		三庄			1	1
21		因北			1	1
22		重井			1	1
23		田熊			1	1
24	尾道市	向島			1	1
25	豊田郡	瀬戸田				
26		生口			1	1
27	尾道市	久保				
28		長江				
29		栗原			1	1
30		日比崎				
31		吉和			1	1
32		美木				
33		高西				
34		浦崎			1	1
35		向東				
36		原田				
37		百島				
	計		2	0	15	17

参加校

17

出典：学生課

( 2 ) 優れた点及び改善する点

(優れた点)

本校の目的等については、本校ホームページや刊行物により学生及び教職員に周知している。また、オープンカレッジや学校説明会などの参加者の多い行事には教育方針が記載された刊行物の配布と説明により社会に広く公表されている。

(改善する点)

該当なし

( 3 ) 基準 1 の自己評価の概要

本校の目的は、学校及び学科ごとの教育方針として、養成すべき人材像を具体的に定めている。また、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではない。

本校は、教職員及び学生に対して、ホームページや刊行物等によって目的及び教育方針の周知を図っている。以上のことから、目的が、学校構成員（教職員及び学生）に周知されているといえる。社会に対しては、本校の教育方針、学科ごとの養成したい人材像をホームページに全て掲載して公表している。また、中学生向けの学校案内には、教育方針、学科ごとの養成したい人材像を掲載しており、オープンカレッジや中学校訪問時に積極的に説明している。